



実は、我が家の庭に井戸を掘ろうと考えています。地震や災害の時は、我が家に水を取りに来てもらえれば幸いです。最近、老後の設計を楽しみにしています。皆さんと茶飲み友達になりたいですね。

事務長 柏崎久雄

娘と婿がカナダに留学していますが、自分の大学院にいた頃を思い出します。奨学金とアルバイトで自活しながら毎日15時間は勉強し、できればフルタイムの留学生になろうと努力していました。妻との結婚を決めた時に、それらを全て諦めたつもりでしたが、無念のような思いが20年くらい残りました。8月の旅行でカナダの鉄道の横を流れる川を眺めながら思いにふけり、横で寝入っている妻を見て、これで良かったのだと神の摂理に感謝しました。苦しく報われなかった若い時の努力が、この歳になって実を結んできました。「桃栗三年柿八年、久雄の大馬鹿18年」と唱え続けて我慢してきたのを懐かしく思い出します。

病児保育には3階の108mを用います。基準は一人1.08mなので、50人以上のスペースとなりますが、とりあえず定員8名でゆつたりとした保育を予定しています。私たち夫婦は5人の子供を育てましたが、保育園にはお世話になりました。私も父母会長を10年以上やらされ、保護者の気持ちも保育園の事情も充分教えられました。病児の子供が楽しく明るく過ごせるように整えたいと考えております。朝8時から夕方6時まで、一人2000円で預ることができますが、診察が必要となります。

私は日本アッセンブリー教団という基督教の牧師でもあり、6年間は教団の監事という役員でした。11月に選挙ですが、体力的に限界かと思いついています。婿が教会を継ぎ、娘がクリニックを継ぎ、息子が会社を継いでくれたら、夫婦でがん患者や低血糖症の患者の回復施設と一緒にゆつくりと余生を過ごすのが願いです。現在、『放射線障害の対策と治療』という本を執筆中ですが、研究や読書は大好きです。

* **感染症の疑いのある方は廊下の入口から**

インフルエンザ、風邪、おたふくかぜ、はしか等が疑われる方は、正面入り口横の中央通路わきにあるインターホンでご連絡ください。院内感染を避けるためご協力ください。待合室も病態別に隔離して診察します。

* **9月よりポリオ不活化ワクチンの予防接種(事前予約制)が始まります。**

これまでと異なり、各医療機関での個別接種(皮下に注射の不活化ワクチン・全4回)になります。生ワクチンの2回接種を終えた子供は、不活化ワクチン接種は必要ありません。ご不明な点等ありましたら、お問い合わせください

* **「聖書を読む会」** 9月11日(火) 2時〜2時20分

* **「回復の会」** 9月11日(火) 11時〜16時

マリヤ・クリニックの案内パンフレットを作りました。ご自由にお持ち帰りくださり、また他の方も誘ってください。

来月1月から当ビル3階で病児保育(8名定員)を予定しています。看護師と保育士(パート可)を募集しています。看護助手と管理栄養士も募集中です。

* **低血糖症治療の会は10月8日(月祝) 10時半**

テーマは「うつ症状の治療症例と対策」会費4000円(非会員5000円)ヨーゼフポイント利用可。3階のエステルホールを利用する最後の会です。

* **『低血糖症と精神疾患治療の手引』が第4版となり、9月14日に発売されます。修正や更新があり、ページ数がこれまでと変わります。**

《 がん治療のための高濃度ビタミンC点滴について 》

がんの治療には、一般的には手術・放射線療法・薬物療法がとられていますが、いずれにしても免疫力や体力の低下が治療上の支障になっています。特に抗ガン剤には副作用の大きさが課題になっております。そういう中でアメリカでは、政府の認可の下で高濃度ビタミンC点滴療法が臨床研究されており、現在1万人以上の医師が実践し、多くの治療成果を見出しています。マリヤ・クリニックは、アメリカのリョーダン医師から指導を受けて、2001年に日本で最初に高濃度ビタミンC点滴を始めた医療機関ですが、認知されていない日本では、長らくガンに対する補助的治療として勧めてきました。つまり、①明らかに有効な方法がない場合、②従来の治療法で改善が見られない場合、③現在確済済みの治療方法と並行して行う場合、としてです。

しかし、補完的代替医療としての理解と治療では、治療成果が改善しづらいことを確認し、苦慮してきました。それは、中途半端なビタミンC濃度で済ませて、がん治療に伴う体調の悪さを改善するためだけのものとして理解されてきたからです。むしろ、これは従来の手術・放射線治療・抗ガン剤の治療を止めるということではありません。年月を経て、日本でも多くの医療機関が実施している治療法となり、その効能も認知されてきました。今後、本来の治験としての成果を確認するために、治療方法を明確に説明し、患者の皆さんに趣旨をご理解いただいた上で、有効ながん治療として高濃度ビタミンC点滴に取り組んでいただきたく願います。以下の内容をご理解いただき、がんの治療に、積極的にご利用いただければとご案内いたします。

[高濃度ビタミンC点滴の効能と注意点]

1. 正常細胞を傷つけずに、がん細胞だけを殺す。
2. 効果はビタミンCの血中濃度に依存する。
3. がん対策には、栄養が重要な意味を持つ。

① ビタミンCは、高濃度と超高濃度で、がん細胞を殺す効果が違う。

水上治医師の「超高濃度ビタミンC点滴療法」によれば、リョーダン医師の実験では、ビタミンC濃度が100mg/dlで黒色腫細胞の9割が死に、大腸がんとすい臓がんの細胞が3割死に、200 mg/dlですい臓がん細胞が死に始め、400 mg/dlで全てのがん細胞が死にました。水上医師は50g以上の点滴を超高濃度ビタミンC点滴として、50g未満の高濃度点滴と区別しています。但し、これらは点滴によってのみ可能な濃度で、経口摂取によっては無理で、胃酸その他に影響を与え、身体を害するので注意してください。

② がん細胞の中で、ビタミンCは過酸化水素を作り、がん細胞を殺す。

がん細胞の中でビタミンCは過酸化水素を作りだし、がん細胞を殺すのですが、正常細胞や血液の中では、赤血球がもっているカタラーゼとグルタチオンペルオキシダーゼという酵素によって、過酸化水素は分解されるために過酸化水素が増えることはなく、害とはなりません。このことは、2005年にアメリカ国立がん研究所や国立衛生研究所で確認され、抗ガン剤として認定されるための臨床試験が行われているそうです。(水上医師、同著)

③ がんが進行中の人はビタミンCの血中濃度が上がらない。

当院のがん治療に関する点滴の結果で、がんその他の炎症が続いている人は、ビタミンCの血中濃度が上がらないことが確認されています。血中濃度が上がらないのは、ビタミンCが効かないのではなく、がんが進行していて、ビタミンCの抗炎症作用と抗がん作用が必死に対処しているからだと思われます。

④ ビタミンCによるコラーゲンの形成が、がん細胞の増殖を防ぎます。

コラーゲンの形成にはビタミンCとタンパク質そして鉄分が必須ですが、多くの人不足しているのでコラーゲンが不足してがん細胞を増殖させてしまうのです。大量のビタミンCは、がん細胞の周りにコラーゲンの膜を生成してがんの浸潤を防ぐのです。サプリメントによるタンパク質の供給は大事です。

⑤ 治療のためには栄養状態の改善が必要です。

ガン細胞は増殖のために、正常組織を破壊してタンパク質を奪い（ナイトロジェントラップ現象）、体タンパクやブドウ糖ががんを食べられるために栄養状態は悪化します。がん患者は、体タンパク質を表すアルブミンという数値が非常に低く、栄養状態の悪化や身体の衰弱を表しています。

タンパク不足から来る貧血もあり、がんそのものではなく、抗がん剤や放射線治療によって貧血を招くということも大いにあります。貧血は軽くみられがちですが、血液中に酸素が足りないということはエネルギーを生み出すことが出来ず、全ての身体の機能が低下することを意味します。がんは嫌気性で、酸素がない状態で増殖するので、貧血の状態ではがんが増殖しやすいのです。また、動物性タンパク質を取らないと免疫力を上げられません。このような理由で、病態を改善するだけの量の栄養素を、食事だけで摂るのは難しいようです。積極的な栄養アプローチはがん患者のQOL（生活の質）の向上や治療成績にも大きく貢献することが、明らかになっています。

⑥ G6PD異常症と腎不全の人は禁忌

G6PDという酵素は赤血球にあって活性酸素の害から守りますが、この酵素の異常の人に高濃度のビタミンCを点滴すると溶血して尿が黄色くなります。腎機能が低下している人も、ビタミンCの点滴によって腎臓にシュウ酸が溜まり腎機能を悪化させます。心不全やビタミンCに対する過敏症のある方も注意が必要です。

⑦ ビタミンC点滴の副作用は以下の通りです。

殆ど副作用のない安全な治療だと言われてはいますが、世界で数例、次の副作用が報告されています。

- A) 下痢、嘔吐(点滴前に腎機能検査を行います。点滴中の浸透圧が高い場合にも吐き気が起きることがあります。)
- B) 低カルシウム血症(点滴中にカルシウム製剤、マグネシウム製剤を使用します。)
- C) 溶血(点滴前にG6PDの検査を行います。)
- D) ガンの壊死による出血(稀にあります。)
- E) 不眠

⑧ 点滴の濃度や期間は体調や容体によって異なります。

点滴をすると体調が良くなり、QOLが向上して、自他共に改善状態がわかります。しかし、がんに対する効果は早くても2～3ヶ月は掛かります。がんの進んでいる人は、なかなかビタミンC濃度が上がらないので、院長との話し合いで濃度と回数を調整します。栄養状態が悪くなった人は、細胞壁が脆くなり、点滴の針を刺すのが難しくなり、また点滴液の冷たさや量によって痛さを覚えることがありますので、院長に相談してください。

⑨ 点滴料金やサプリメントの購入

点滴用のビタミンCは最高水準のものを外国から取り寄せています。温度管理や品質管理のしていない製品は、酸化や劣化で効果が著しく違うことが確認されています。その他の点滴に用いるものや院長の判断で付け加えるものもあり、定期的な点滴には高額な治療費を必要とします。サプリメントの利用もがんが命を左右するものであることから、積極的な利用をお勧めしますが、どちらも様態の改善により、かなり軽減されてくるものです。院長や管理栄養士、そして看護師に遠慮なくご相談ください。

<治療の流れ>

初回来院時は管理栄養士の説明に30分程度時間程度かかりますので、点滴開始の30分前にいらして下さい。

- ① 管理栄養士の説明（高濃度ビタミンC点滴治療について、栄養療法について）
- ② 診察⇒採血⇒点滴開始～終了

- ③ 次回予約
- ④ 検査結果説明、摂取サプリメント、食事の注意点などお伝え
- ⑤ 月1回の栄養指導と診察

※ 初回の栄養士のご説明については、体調の悪い方は、横になりながらのご説明も可能です。ご家族の方も一緒に説明を聞いて頂けると心強いです。(⑤の栄養指導は、点滴中に行います。)

初回は25gのビタミンCを週に2~3回点滴することから始め(この段階でだるさ・痛みの減弱が見られます)、次に50~100g(場合により約125g)を週2~3回まで増量して行います。1回の点滴で使うビタミンCの量は点滴直後のビタミンC濃度が400~430mg/dlまで上がるまで増量し、その後はその量を維持します。

<点滴時間の目安>

ビタミンCの量	25g	50g	75g	100g	125g
点滴時間	50分	100分	150分	200分	250分

※ この他に診察や点滴の準備の時間が掛りますので、十分に時間の余裕をもって来院してください。基本的に予約制です。

<料金:(自費診療・税別)>

ビタミンCの量	~25g	50g	75g	100g	125g
料金	6,000円	12,000円	18,000円	24,000円	30,000円
上記に、点滴料950円、注射用水162円、ソリタT3-152円、その他の添加製剤を院長の診断で追加します。					
その他検査費用	G6PD 検査:10,000円 ビタミンC 血中濃度検査:5,000円				

※ 医療保険適用はありませんので、自己負担となります。

- ① 点滴は週 2~3 回が必要です。
- ② G6PD の検査(初回のみ、赤血球の膜が溶血を起こしやすい体質がないかどうかの検査)
- ③ ビタミンC 血中濃度測定を月に1回(自費)ほど行います。
- ④ 点滴効果を高めるために、経口サプリメントの摂取をお勧めします。
- ⑤ 月1回、身体の栄養状態と腫瘍マーカーなどを検査する料金が別にかかります。

※ 治療中の体調管理が大事です。最寄りの看護師か管理栄養士に御相談・お伝えください。

《 診 療 時 間 》

月曜~金曜 (午前8時30分~12時10分、午後2時30分~5時30分)

土曜 (午前8時30分~12時10分、午後2時~4時)

休診日 木曜、日曜、祝日、年末年始

- ・各種健康保険取扱機関
- ・介護保険取扱機関
- ・結核予防法指定機関
- ・身体障害者認定医
- ・各種健康診断
- ・生活保護指定機関
- ・特定疾患取扱機関
- ・自立支援医療機関
- ・小中台小学校校医
- ・栄養療法(分子整合医学)



(携帯サイトへ)